



基本的に高い食品への信頼度

猪木 祥司

品質表示は減少傾向

2000年12月に調査機関IFKAが行った調査によると、食品の品質に対して、35%が「非常に不安である」、28%が「不安である」と答えている。また、97年の同社の調査では、85.2%が「飲料水の汚濁」、74.0%が「食品の中に含まれる薬物・農薬の残留」に対する不安を挙げており、消費者の食品の品質に対する関心の高さがうかがえる。

デンマーク政府による公的な食品表示としては、有機食品であることを示す「政府認定有機表示 (Økologiske Mærke)」, 食肉の品質を保証する「食糧省品質表示 (Fødevareministeriet Kvalitetsmærke)」, 砂糖または脂肪分が他の製品よりも少ないことを示す「S表示 (S mærke)」がある。また、業界団体による表示では、豚肉の「アントニウス」「ポーカー」をはじめ、食肉の品質を証明する表示が多数ある。

しかし、食肉に関する食糧省品質表示は、既に多くの表示が存在していたこと、また、表示の有無にかかわらず、全体的に食肉の品質が向上していることもあって、業界からの認可申請があまり多くなかった。このため、食糧省品質表示は、近い将来の廃止が決定しており、他の品質表示も店頭であまり見かけなくなるなど、品質表示はここ数年減少傾向にある。

認知度高い「政府認定有機表示」

消費者の間で食品表示に対する関心が比較的低い中で、デンマーク統計局の調査(2000年)によれば、83%の消費者が「政府認定有機表示」を見たことがあり、60.8%が信頼をおいていると回答している。同表示に対する認知度が高いことを示すものと言えよう。

全国有機組合 (Økologisk Landsforening) によると、2001年の有機食品の小売市場規模は約20億クローネ (1クローネ=約16円)

で、食品市場全体に占める割合は5%程度と推定されている。同組合の調査(2001年)では、消費者が有機食品を購入する理由として、44.7%が「自分自身と

子供の健康への配慮」を挙げ、39.2%が「環境・自然への配慮」、24.8%が「家畜の飼育環境への配慮」と答えており、「感覚(味・見た目)など」は、17.1%であった。また、IFKAの同様の調査の分析結果では、消費者が有機表示添付の食品を選ぶ理由は、同表示が健康・環境を害する薬品・農薬などを使用していないという事実を保証しているためである。

しかし、前述の全国有機組合の調査(2001年)によると、デンマークでは有機食品の市場占有率はさほど高くない。一般食品との価格差の小さい牛乳で占有率は最も



認知度が高い「政府認定有機表示」

高く26.0%，次いで、オートミール（22.9%）、卵（16.9%）となっている。一方で、価格差が67%と大きい有機豚肉の全豚肉市場に占める割合は0.3%となっている。

通常の食品と有機食品の価格差をどの程度許容できるかという調査（2001年，デンマーク統計局）では、「10%程度なら許容できる」との回答が51%、「30%程度」が21%、「50%程度」が6%となっている。一方で、21%は「価格差は許容できない」と回答している。このように、デンマークの消費者は、安全性、より品質の高い有機食品のメリットを認める一方で、その対価として高値を支払うことには、必ずしも肯定的ではない。

消費者優先の政府、対応速い食品業界

デンマークは、国内消費量の約3倍の農産品・食品を生産し、自給率は、穀物120%、豚肉485%、家きん類211%、バター188%と非常に高くなっている（農業評議会）。また、2001年農産品・食品関連の輸出は、811億5,200万クローネで、輸出総額の10.6%を占めるなど、農産物輸出国でもある。

2000年2月にデンマークで初の国産牛のBSE（狂牛病）が発生した際、政府は発生当日の午前中に公にし、その日の午後4時には、食糧相が対応策を発表した。政府の迅速な対応により、牛肉消費の落ち込みは非常に短い期間で回復した。政府は企業ではなく国民の利益優先を伝統としており、食品の安全性に対する意識が高いことで知られている。

食肉業界では、法律では禁止されていない成長促進剤（内臓におけるバクテリアの発生を防ぐ抗生物質）の使用を、消費者の抵抗により、99年から自主的に停止してい



有機表示のある食品例

る。

また、例えば、妊娠した雌豚で、群れが20頭以上の場合、妊娠後、最低4週間から出産1週間前までは自由に動き回れるよう1頭当たり1.8平方メートルの広さが確保されなければならないなど、家畜の飼育環境が法律で厳しく規定されている。これに加え、業界では独自に豚の輸送時間を最高8時間までに制限している。これにより、輸送中の豚の死亡率は世界最低の0.01%まで下がっている。

以上の例に代表されるような政府の迅速な対応と、より品質の高い食品を生産しようとする業界の自主的な対策により、デンマークの食品は、基本的に消費者の信頼を獲得している。このため有機食品のように、さらなる高品質が保証されていても、高価格であればあえて購入する必要性を感じていないとも言える。

デンマークは、消費者のための行政と、消費者の要求に応えようとする食品業界のたゆまぬ努力によって、品質保証を旨とする食品表示制度を特に設けなくとも、消費者が安心して食品を購入できる土壌が整っていると言えよう。

（いぎ しょうじ／コペンハーゲン事務所）